

令和2年第3回水道事業運営委員会 議事録

日 時：令和2年10月20日（火）午後2時～

場 所：石狩市役所 5階 第1委員会室

委員出席者：5名

小笠原会長・山田副会長・田守委員・松原委員・大黒谷委員

事務局出席者：5名

高野部長・新関課長・佐々木課長・勝又参事・川村主査

傍聴者：0名

議事：(1) 議題

①水道料金表の一部見直しについて【諮問に伴う継続協議】

配布資料：別添のとおり

=====

【14:00開会】

■ 議題 水道料金表の一部見直しについて

(前回の質問等について川村主査、勝又参事から説明)

小笠原会長 水道と社人研で推計している人口に相当乖離があるので、人口推計のグラフがあれば非常にわかりやすい。

(当市と社人研の人口推計のグラフをスクリーンに提示)

小笠原会長 水道で予測した人口推計の算出方法は。

勝又参事 過去の人口推計約7年分をもとに、時系列傾向分析で算出している。

小笠原会長 減少や増加の傾向をそのまま延長した形になるのか。

勝又参事 相関係数が最も大きい計算を使っており、社人研とは算出根拠が違う。

小笠原会長 人口予測に基づいて計画を立てている部署があると思うが、水道の予測方法と同じか。他の部署と予測方法で齟齬があるといけない。

勝又参事 日本水道協会の水道施設指針に則って算出しており、他の部署の方法は把握していない。また、他の部署と整合をとりながら算出をしていない。

小笠原会長 ある程度の誤差はあってよいが、将来予測に基づいて計画を立てている他の部署は納得するか。また、市民から質問をされた場合にどう説明するか。国は手法が違っていても減ると言っている。日本水協が示した方法は、トレンド解析の通常の手法を示したものではないのか。市として責任を持てるのか。

勝又参考事

我々は市の住民基本台帳から算出しており、社人研の人口推計と平成27年度を比較した時点で、既に1,600人程乖離しているため、過去の実績から見て今回の時系列分析法が、より水道事業としては適していると考える。

小笠原会長

市として、人口が減らない予測を立てることに胸を張れるか。

新関課長

補足するが、当然企画課と話はしている。整合性の問題に関して、社人研のデータは国勢調査をもとに作成しており、企画課で作成した計画ベースのデータも社人研の4年前のデータを使用している。

住基より国勢調査のデータは低く、市民課で持っている住基の人数は精度が高い。

橙色の部分は住基の人数で算出しているため、社人研とは乖離している。水道事業の経営において、住基と合っていないデータを使って予測値をつなぐと、かなり過小になってしまふため、給水人口をもとに算出した人口推計との乖離が出てきている。

山田副会長

モデルを過去のデータに当てはめ、実績値を予測する等をやってみて初めて、適しているかどうかわかるが、それをされているか。スタート地点の値が違うからといって、傾向が絶対に合わないと断言するのは少し違うと思う。説得力のあるご説明や、市の内部で意見の調整がされている必要があるのではないかというのが会長のご指摘だと思う。

小笠原会長

住基は国勢調査とは相当乖離があり、むしろ住基の方が多めに出るのは一般的の傾向だと思う。例えば学生は市外に住むことになっても、住民票を移さない人は多くいる。

どんな手法だとしても本当に人口減らないのかが気になる。

経営はかなり厳しく見ることが一般的だが、楽観的に収支計画を見ている感じがして仕方がない。

将来、給水人口は減らないから有収水量もそれほど減らないという説明になっているが、それで間違いないと自信持ってもらえば納得する。

佐々木課長

平成27年の石狩西部第2期創設事業の人口推計と整合をとる形で算出している。

当市は平成27年度ぐらいが人口のピークで、これからは下がっていくと予測されるので、このグラフ自体も微減していくグラフになっている。人口が全く減らないという傾向は出していない。

花川は人口が伸びているが、過疎地域は減っているので、バランスをとりながら今回は新港地区の有収水量の增加分は考慮せず、人口の増減だけを見て、今回は収支計画の有収水量を出すために人口推計をしてるので、決して楽観的に算出した数字ではないということをご認識いた

だきたい。

小笠原会長

佐々木課長

10年後まではこのような人口推計でいくと公言して大丈夫か。

当市ではそう思っている。微減微増がここ数年続いており、どうしても下がり傾向になってしまうが、その中で一番統計数字的に係数が1に近いものを採用している。

山田副会長

勝又参事

山田副会長

勝又参事

相関係数を計った期間は何年から何年までか。

平成25年から令和元年まで。

8年分で10年分を予測しているが大丈夫か。

時系列分析は、大体10年程度のデータで算出するのが最適だと言われているので、十分だという認識である。

小笠原会長

人口減少は微減だということを市役所の内部でオーソライズされるか。例えば有収水量が予測値よりも減ったとして、一般会計と予算上のやりとりをする際に問題ないかという心配もある。将来に対する補償のために将来予測をある程度話し合う必要があると思う。

繰入金等を予測するときの根拠数値に齟齬が出てくることはないか。

財政からの繰入金で議論にならないか。

そのような懸念については財政課と話をしている。

財政課は人口推計のグラフをご覧になっているか。会長のご指摘は、有収水量ではなく人口推計が判断材料になるので、財政課には人口推計を見せたほうがいいのではないかという懸念だと思う。

有収水量を見せることにより、人口の予測について財政課は認識していると思う。

財政課は、一般会計からの繰入の予測値は出していると思う。それで議論をして年度毎に金額を決めていたはず。

一般会計から基準外の繰入金はもらっていない。一般会計に入ってきた交付税分をもらっているだけなので、特に財政課が水道の経営に対して、より多くもらう補助金はない。

ルール分のみということか。

その通りである。

仮に水道の人口推計より少し下がったとして、有収水量が下がれば、ルール分として国からの交付金が少し増えることになるか。

人口が少し下がったとしても、新港の伸び率分で十分耐えられる。

人口の将来予測にある程度誤差があったとしても、新港の伸びが著しいので水道の收支としてはそれほどの影響を受けないという説明か。

そうなると新港の伸びがどれほど確実かということを問われると思う。

佐々木課長

新港は顕著に企業の操業数が増えている。

山田副会長

ただ、今回のコロナや地震があったときに、急激に増減が生じる、あるいは企業が撤退する等のリスクもある程度予測しなくてよいか。

佐々木課長

企業の今後のことを見るのは難しいと思う。

小笠原会長

石狩湾新港のほとんどの企業は製造業なので、突然撤退することにはなりにくいと思う。今後の伸びは鈍化する可能性はあるが、着実に増えしていくと思う。

高野部長

新港に期待をしているというのは事実だが、一番大事な給水人口については、人口減少が鈍化してきているので、今回算出した微減するという予測が一番適当ではないかと考える。

小笠原会長

水道で出した予測値より少々下がったとしても、新港の水量でカバーし得るという解釈でよいか。今回の予測値は、水道事業運営に重大な影響を及ぼさないといい切ってよいか。

高野部長

担当としてはそう考えている。

小笠原会長

質問等なければ、答申に進みたいと思う。

答申の内容としては、私が考えるに今回の料金表の見直しは、住民サービスの一環としてできるだけ均等に水道サービスをしたい。したがって、水道料金の逓増制も一部解消するということである。

今回の料金表見直しは妥当であるということを本文とし、今まで皆さんに議論していただいたことや要望をそこに列挙する。

よろしければ、事務局とこれまで話し合って作っていただいた、たたき台があるので、用意をお願いする。

～休憩～

小笠原会長

どなたか読んでいただけるか。

新関課長

(答申 (案) 読み上げ)

山田副会長

2ページの上から7行目、「料金体系検討が検討課題と」あるが、前の「検討」を消し、「料金体系が検討課題」でよいか。

小笠原会長

3番目に「尽力することを要望する」とあるが、「要望する」というのは、「審議を進めた」結果、要望することになったという解釈でよいか。

山田副会長

審議した結果が要望であってよいかということか。

小笠原会長

なにの審議を進めたかということを本当は書くと思う。そこで「要望する」という言葉をここに入れてよいのか。

山田副会長

今回は、追認する以外に選択肢のない議論だったので、そもそも「審

議した」という言葉が合っていないのかもしれない。

小笠原会長 「下記のとおり確認した」でどうか。

山田副会長 1番も審議していないから「確認した」でどうか。

～準備～

(小笠原会長から答申文を読み上げ、高野部長に手渡し。)

小笠原会長 では諮問案件に関する審議は、これにて終了。ありがとうございました。

【15時15分 終了】

令和2年11月27日議事録確定
石狩市水道事業運営委員会事務局